

本来の概念である教理・法相等及び自然人文に関する概念である動植物・政経等の五十項目に分類配属されている。尚本文を検索するための附編として項目別索引及び檢字のための面引索引と新しい試みとして四角号碼索引が付されている。

最初の成果であるため充分な検討の及ばぬ処もあり、多くの人の手を煩わしただけに幾分統一のとれていない点もあるが、玄奘訳と真諦訳の対比ができ、或は俱舍論と順正理論の同一用語に対する意見の相違を検索できる点等便利な面が多く、又、インドの古代生理学・医学及び仏教に受用された世界観・輪廻説等非常に興味深い内容も多数含まれていて、斯学に志さず学徒のみならず一般のこの方面に関心ある人々にも必携の索引になっている。

大正新修大藏經刊行会・四六倍判・価
三〇〇〇円・三六〇頁

(健主)

新纂禪籍目録

禅学関係の目録は義諦の編集した禪籍

志など数種あり、仏教全書にも収められているが、昭和三年に駒沢大学で発行された禪籍目録は、その集成として研究者の座右の書になってきた。この度新纂された目録はその大幅な改訂増補であり、その後の研究成果もとり入れられて姿を一新し、永らくの学界の要望に答えたものである。序文によれば小川靈道氏の努力の結晶である由、今後の禅学研究のより有機的発展をうながすこと疑いない。

本書は第一編に徳川末期までの所出禪籍を五十音順に排列し、末尾に著者名索引をつけているが、これは専門研究家にとつて便利がよく、特に書名の後に所蔵者・出拠・註記などが示されていることは、語録等の稀本の多い禪籍には必要なもので、解説辞典の役割も果しており、先の禪籍志の意図も生かされて、その活用は充分になされうであらう。第二編は明治以後の文献が内容別に集められ、末尾には書名が五十音順にあつめられて、初学者にも使用しやすくされているし、又巻尾には洋書索引もつけられている。このように編纂には初学者にも専門家にも向くように注意が払われているの

で、禅学研究の礎石となるであらう。

しかしこの種の書籍は時間や紙数の限度も伴って万善は期し難いもので、遺漏や分類の不満などあるであらうが、これは編纂の責ではなく、識者の補うべきものである。第一編に分類別の索引があれば、禅学研究以外の学者にもより重宝であらうが、幸い谷大図書館における禪籍はかなり豊富であり、蔵門互集や參同契管窺などの貴重本も蔵書されていることとであり、大谷大学和漢書分類目録と併用することによってそれをおぎない、この禪籍目録出版を期に禅学研究が盛んにおこなわれるようになれば、浄土と禅の新しい実践道が開顕されていくであらう。

駒沢大学図書館・三五〇〇円
昭和三十七年六月三十日発行

(三桐)